



令和7年 4月14日(月)
石垣市立白保小学校
TEL：86－7840
FAX：86－7396



新しい出会い 素敵な出会い おめでとう！



ワクワクドキドキ…出会いの春4月。新職員と13名の新1年生を迎え、令和7年度の白保小学校がスタートしました。日々の学校の様子や学校行事、教育に関する話題など、保護者や地域の皆様に幅広く読んで頂けるような学校だより「三本木」にしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたしす。 第43代 学校長 北田 憲司



令和7年度 白保小職員



職・担任	氏 名 (前 任 校 等)
校 長	
教 頭	
教務主任	
1年担任	
2年担任	
3年担任	
4年担任	
5年担任	
6年担任	
スマイル担任	
養護教諭	
事務主事	
学校司書	
音楽専科	
外国語専科	
子ども自律 支援サポーター	
特支教育 支援員	
用務員	
警備員	

白保小学校に新1年生13名が入学！ ご入学おめでとうございます！



入学式より（式辞）

13名の1年生に以下の3つのお話をしました。

し「失敗しても泣かない、あきらめない強い子になること。」

失敗することは何も恥ずかしいことではありません。人は失敗からたくさんのことを学んでいきます。たくさん失敗してそのたびに学んで、かしこく、たくましく強い心と体を持った子になってほしいと思ひます。

ら「楽になると楽しくなる。」

泣いている子や怒っている子がいたら、「どうしたの？」と声をかけてあげましよう。「心配しなくても大丈夫だよ」と声をかけることで、その子たちの気持ちがすーっと楽になります。そして友だちがそばにいてあげることで楽しくなります。

ほ「やさしい子や勇気のある子がいるとほっとする。」

やさしい子がいるだけでみんながほっとします。こわいことや悲しいことがあったときに、「ぼくがついているから大丈夫」「わたしがいるから心配しないで」と言われると安心します。まわりの友だちをほっとさせてあげる、やさしい子や勇気のある子になってください。

新任式・始業式より



始業式より（式辞）

9日の新任式で9名の新たな新職員が加わり全職員19名でのスタートとなりました。また、全児童数は転入生・新入生を合わせ、計123名となりました。その後の始業式では、以下の2つのことを子どもたちに話しました。

1 よい子＝自分で考えることのできる子

よい子とは、勉強ができる子でも親や先生の言うことをよく聞く子でもありません。将来自分はどんな人間になりたいのか、そのために今何をしなければいけないのかをちゃんと自分で考えることのできる子、それがよい子＝自立している子だと話しました。勉強って何のためにするんでしょう？ かしこくなるため？ 大人になるため？ それを自分で考えてください。それが自立するということです。



2 「楽しい学校」にするには

それぞれが勉強したいことや好きなこと、やりたいことがたくさんある＝ワクワクするような夢があふれる学校にしたいと思っています。そのために必要なのは6年生！新しい学校のリーダーであるあなたの方が必要です。この白保小学校をどんな学校にしたいのか考えてください。先生たちも全力でサポートします。一緒に考えていきましょう！

麦わら帽子と軍手のプレゼントも頂きました。「きれいな学校にしよう！」というメッセージだと思ってがんばります！



4月の行事予定

- 9日(水) 新任式・始業式
- 10日(木) 入学式
- 11日(金) 身体計測(4・5・6年)
委員会活動発足式
- 14日(月) 身体計測(1・2・3年)
- 15日(火) PTA 役員会(R6年度)
- 16日(水) 歯科検診
- 17日(木) 全国学力学習状況調査(6年)
- 18日(金) 1年生給食開始
- 21日(月) 県学力定着状況調査(4・5年)
視力・聴力・心電図検査
家庭訪問(自宅確認のみ～25日)
- 29日(火) 昭和の日(公休日)
春の遠足(パンナ公園)
- 30日(水) 委員会活動②



5月2日(金) 春の遠足振替休日

ステキなプレゼント！

入学式当日の朝、地域の大泊キミ子様より1年生一人一人にお祝いのプレゼントがありました。きれいな布で覆われた小さな貝殻の中には、マース(塩)と福木で染めた麻の糸が入っているそうです。大泊さんは、白保の子どもたちの交通安全を願ってこの手作りのお守りをプレゼントし始めて17年になるそうです。白保小学校の子どもたちは、こうした地域の方々の温かいご支援で見守られていることを強く感じました。

ありがとう
ございました。大切に
します！



We can Change! Team Shiraho 変化し続け 変化を楽しむ 白保小 教師集団であれ！

変化を恐れ変化を嫌う…かつての学校現場がそうであったように、学校は失敗が許されない場所、他と違うことができない場所になっていました。みんなと同じように同じことができるようにする教育を求められた結果画一的でとても閉鎖的で社会から取り残された時代遅れの現場となっていたのです。(同調圧力が強かった時代) どの世界でも何かを変えるには大きな労力が必要で、他と違うことをすれば理由を求められました。

学校現場はただでさえ多忙を極める仕事をそれ以上多忙にしないために、変化することを嫌う＝違うことをしようとすることを許さない傾向にありました。しかし、それでよいのでしょうか？ 教室では子どもたちに「失敗してもいいんだよ。」と話しているのに、失敗を恐れる教師。「みんな違ってみんないい。」と言っているのに、自分たちはそれを許さない。とても閉鎖的な職場がかつての学校現場だったのです。毎年入れ変わる先生や子どもがいるのに、現状維持＝例年通りの対応では何も変わりません。そんな学校が楽しくなるはずがありません。「現状維持は後退である。」という言葉があります。現状に満足することなく、常に変化を求めていく行動を教師自らが起こしていくことで、子どもも新たな発見・進化・成長につながっていくと思うのです。「Changing for the better」(三菱電機のスローガン) 保護者・地域から信頼される学校であるためには、時代と共に変化し続ける学校＝それを担う教師集団でなくてはなりません。そこに子どもが置き去りにされないよう、教育の主体者＝子どもであることを念頭に置き、私たちは進んでまいります。